



特集

大胆な体験型スタディーで
求められる人材の育成を目指す
「実践教育プログラム」。

研究室訪問 / 理学部

樹氷を採取・解析することで
大気中の汚染物質を調査。

大胆な体験型スタディーで 求められる人材の育成を目指す 3学部共同 「実践教育プログラム」。

実践教育プログラム
推進センター 専任教員

長岡昇

実践教育プログラム
推進センター長

北川忠明

実践教育プログラム
推進センター
運営委員会 委員

中村唯史

実践教育プログラム
推進センター 専任教員

栗野武文

小白川キャンパスの人文学部・地域教育文化学部・理学部では、
本年度より3学部共通の特別教育コースとして「実践教育プログラム」を開設。
本プログラムは、グローバリゼーション及び地域再生の諸課題に対応できる
地域リーダーの育成を目指すもので、海外留学を必修とする「グローバル・スタディーズコース」、
自治体等公共機関または企業等での長期インターンシップを必修とする
「公共政策スタディーズコース」と「企業活動スタディーズコース」という3つのコースを設定。
前例のないプログラムだけに運営メンバーの苦勞も多いが、成果への期待も大きい。
今回は、本プログラムのキーパーソンとも言える4名が集まり、
「実践教育プログラム」の概要・目的および現状を確認するとともに
今後の展望・課題について語り合った。



実践教育プログラムホームページ
<http://www.yamagata-u.ac.jp/gp/jissenkyouiku/index.html>

社会が求める人材の輩出へ 動き出した「実践教育プログラム」

北川 お集まりいただきありがとうございます。本日は、本年度からスタートしました「実践教育プログラム」を、学生はもとより地方自治体や企業の方々、そして地域のみなさんに大いにアピールしていただきたいと思えます。まずは、読者のみなさんに向けて自己紹介を、中村先生から順にお願いします。

中村 私は、「実践教育プログラム」の準備段階で、主に「グローバル・スタディーズコース」の企画を担当し、現在は、推進センター運営委員会の委員として、留学に向けての異文化理解や外国語教育を担当しています。

長岡 同じく「グローバル・スタディーズコース」担当の長岡です。30年間、新聞社でアジア報道に携わり、その後、出身地である朝日町の小学校で民間人校長を4年務め、この4月からプロジェクト教授に着任しました。1人でも多くの学生を留学に送り出し、グローバル社会で活躍できる人材を育成したいと考えています。

栗野 「企業活動スタディーズコース」担当の栗野です。前職は、総合人材サービス企業で就活生向け講座の企画運営や講師を務めていました。その経験を生かし、本コース及び「公共政策スタディーズコース」も併せて、全体のとりまとめや外部との渉外を担当しています。

北川 私は、本プログラム推進センター長の北川です。人文学部長でもあり、国際交流と社会連携を担当してきた経験を生かしつつ、プログラムを充実させ、センター長としての役割を果たしていきたいと考えております。では、ここで本プログラム開設の経緯についてお話しさせていただきます。



北川 忠明

きたがわただあき ●実践教育プログラム推進センター長／人文学部長、人文学部法経政策学科教授。京都大学・法学部卒業、専門分野は政治学。国際交流と社会連携を担当してきた経験を生かし、本プロジェクトを推進。

大学改革推進の命を受け、小白川キャンパスにある人文学部・地域教育文化学部・理学部の3学部の代表が集まり、大学として取り組むべき事について話し合いを始めたのが1年半ほど前です。その中で、東北の地方大学として優秀な人材を輩出してきたこれまでの実績をさらに強化すべく、グローバル化と地域再生といった、近年の傾向を強く意識した人材育成プログラムの開設を決定しました。実践教育プログラム推進センターを設置し、急ピッチで準備を進め、本年度からのスタートに漕ぎ着けたわけです。

時代や地域社会が求める リーダーを育成する3つのコース

北川 引き続き、「実践教育プログラム」の全体像を、中村先生の方からご説明いただきたいと思います。

中村 「実践教育プログラム」は、グローバル化に対応できる人材や、東北地方の地域再生を担うリーダーを育成するために、人文学部・地域教育文化学部・理学部それぞれの専門教育とは別に、3学部共通の特別教育コースとして実施するものです。大学卒業後、外国語コミュニケーション能力を生かして社会の様々な領域で活躍したい人、自治体等の公務員・職員を志望する人、民間企業等において活躍したい人のために設けられました。3

モデルケースのない 難しいプログラム —— 北川

学部の学生が、それぞれの学部専門教育を受けながら、2年次から履修することになります。コースは3つあります。「グローバル・スタディーズコース」は、グローバル化に対応できる異文化理解能力や外国語コミュニケーション能力を持つ人材を育成することを目的とし、そのために必要な基礎的な語学運用能力と、異文化や社会に関する知識と理解、それらに基づいた課題発見・解決能力を、海外留学とその前後の学習によって習得します。「公共政策スタディーズコース」と「企業活動スタディーズコース」については、栗野先生をお願いします。

栗野 グローバリゼーションによって変化していく地域社会における、様々な課題を発見し、解決策を考案、実行できるリーダーの資質をもって自治体やNPO、または企業で活躍する人材を育成するコースです。自治体や企業等における長期インターンシップの履修と、課題研究発表や課題研究論文作成により、実践的能力や専門知識の応用能力を高めていきます。

北川 それぞれのコースの定員は20名、15名、15名とかなりの少数精鋭で、意欲的な学生を、経験豊富なコーディネーター教員とマネージャー教員が懇切丁寧に指導します。そして、所

定の単位を修得した場合は、本プログラムの修了認定証が交付されることになっています。「実践教育プログラム」は2年生からですが、1年次はその準備段階として、キャリア形成に自覚的に取り組む動機づけの段階と位置づけ、2週間程度の海外体験や職場体験、ワークショップ、講演会など、多彩な推奨カリキュラムが用意されています。それらを踏まえて、



グローバル・スタディーズコース

世界のグローバル化で異言語・異文化圏の人々との交流が日常化。基礎的な語学運用能力と、異なる文化や社会に関する知識と理解を、海外留学とその前後の学習によって深める。



公共政策スタディーズコース+企業活動スタディーズコース

自治体やNPO等、または企業で長期インターンシップを実施。地域再生にリーダーシップを発揮できる人材、或いは企業活動により地域経済の活性化に貢献する人材を育成。



公共政策スタディーズコース、企業活動スタディーズコースの初回授業。
まずは、同じコースを履修する者同士、コミュニケーションをとるところから授業はスタート。

2年次からは3つの中からコースを選択して本格的なスタートとなるわけです。

アカデミックな学びを 社会に役立てるための実践術

北川 それぞれのコース担当者はどのような特徴づけを心がけているのでしょうか。中村先生、いかがですか。

中村 3学部それぞれの専門教育、アカデミックな授業は大切です。そのうえで、各学部

で体系的に学んだ知識を社会で役立てるためにどうすべきかを、学生自身が考え、試してみるためのプログラムだと思います。「グローバル・スタディーズコース」については、留学先の外国語、異文化を集中的に学ぶとともに、海外に行くと日本についても語る機会が増えてきますから、日本の歴史や文化、政治なども、しっかり勉強してほしいと思います。また、漠然と海外留学をするのではなく、事前に先生と話し合っただけでテーマを決め、それを現地で調査・研究し、その結果を留学先の言語でレポートにまとめてもらう予定です。

長岡 大学におけるアカデミックな授業の重要性は中村先生がおっしゃる通りで、それらを実社会のニーズに適合するように微調整するコースと考えています。私は、新聞社勤務の経験から「グローバル世界を考える」という授業を持たせてもらっています。明治以降、第二次世界大戦前後、世界がどう動い

て来たかを知ることは非常に重要なのに、中学・高校での近現代史の授業は駆け足で、ほとんどの学生が理解不足。基本を押さえておいてほしいので、わかりやすく、興味や共感を持ちやすいように、2011年の3.11から遡るという手法で近現代史を教えています。

北川 栗野先生は、いかがですか。

栗野 なんとと言っても1カ月以上のインターンシップが大きな特徴ですね。「公共政策スタディーズ

コース」の場合は自治体やNPOで、「企業活動スタディーズコース」の場合は企業が体験先です。そして、これまでの消費者視点から生産者視点への変更を意識づけしていきます。大手企業や自治体ですら財政破綻するご時世、就職先に安定を求めるのではなく、自分自身に力をつける必要性を伝えています。さらに、待機児童対策では横浜市の取り組みを国がお手本にしようとしているように、自治体が国に対して影響力を持ちはじめている今、国が東北を真似る、山形を真似る、その発信者となるような人材

キーワードは
「対話」だと思う —— 中村

1人でも多くの学生を
留学に送り出す —— 長岡

を育成していきたいと思っています。そのためにも長期インターンシップで実務に携わることで、現実とのギャップやミスマッチを減らしてほしいものです。

モデルケースのない難しさ 学生たちの反応と今後の予定

北川 この「実践教育プログラム」には前例やモデルケースがありませんから、苦勞も多いと思いますが、中村先生、いかがですか。

中村 確かにモデルがありませんでした。でも、アカデミックな授業で体系的に学んだ事を、社会でどう生かせるかのイメージを持たないまま、卒業するのはもったいないです。問題・課題に対して、今まで学んできたことを総動員して対応できるように、トレーニングをするプログラム。そう考えると、大変でもやる意義は大きいですね。

北川 学部で学ぶ専門性を社会でどう生かすかという、いわば応用編。私自身、企業や自治体といった現場を知らないの、非常に心もとない部分もありましたが、長岡先生、栗野先生という現場体験の豊富な専門家に着任していただくことができ、本当に良かったと思っています。

長岡 時代の流れが「一極集中処理」から「個別分散対応」へと動く中で、社会も大学も対応しきれていないのが現状。学生たちがそれに対応していくためのプログラムでもありません。先行例がないのだから試行錯誤しながら



中村 唯史
なかむらただし ● 実践教育プログラム推進センター運営委員会委員 / 人文学部人間文化学科教授。東京大学教養学部卒業、人文学部研究科修了。専門分野は、ロシア・比較文化。自らの留学経験を踏まえて長期留学を推奨。

このプログラムの魅力は、 多様なキャリア形成の可能性

理学部の卒業生の就職先は、製造から教育、金融など多岐にわたりますが、このプログラムは、理学部の学科別カリキュラムだけではサポートしきれない、多様なキャリアパス形成につながるものと期待しています。理論と現実の違いを現場で学び、より適正な判断ができる能力を身につけてください。



玉手 英利
たまてひでとし ● 理学部長

学生の能動的な選択、行動を 教員・スタッフが親身にサポート

海外留学や企業における長期インターンシップなど、実践性を重視した斬新なプログラムです。専任の教員・スタッフによる充実したサポートも期待できます。自らさまざまなことにチャレンジし、自分自身を成長・飛躍させるチャンス。主体的に自らの意思で課題を見出し、実践してください。



那須 稔雄
なすとしお ● 地域教育文化学部長



長岡昇

ながおかのぼる ●実践教育プログラム推進センター教授／東京大学法学部卒業。東芝を経て、朝日新聞に入社、ニューデリー支局長、ジャカルタ支局長、論説委員を務めた。2009年から民間人校長として朝日町で勤務。

進んでいくしかありません。

栗野 私は前職時代に山大で講演したことがあるのですが、講演中に、目の前で学生がみるみる変わっていくのがわかりました。いい学生がいっぱいいるのに、なかなか企業が目を向けてくれないんです。もったいないと思いました。だから、このお話をいただいた時に、学生のみなさんをもっともっと刺激して、企業が積極的に山形に来るようにしたいと思ったんです。地元でもありましたし。

北川 まだ4月にスタートしたばかりですが、1年生の反応はいかがですか。

栗野 先日のワークショップは、結構盛り上がりました。初めての顔合わせだったので、学生たちがもっと人見知りするのではと思っていましたが、楽しそうにやっていましたね。自己開示、他者理解、コミュニケーションを第1ステージと考えているのですが、順調にクリアできそうです。すでに就職活動を意識している学生もいれば、いろいろな文化に触れて自分を見つめ直したいという学生がいたり、彼らの意識は高いと感じました。

長岡 小学校の校長をしていた時にも、いろいろな発見や気づきがありましたが、大学生からの反応もなかなか勉強になりますね。近現代史についてもアプローチの仕方を工夫す

ることで関心を持ってもらえるようで、反応はいいですね。私にとってもいい刺激になります。

北川 概ね反応は良いようで、好スタートを切れたと言っていいのではないのでしょうか。今後はどんな授業を展開していく予定ですか。

栗野 2年次以降の長期インターンシップに備えて、企業や自治体に送り出しても恥ずかしくない人材を育てるために、定期的にワークショップや講演会を企画し、できるだけたくさんの方と接する機会を設けたいと考えています。

長岡 私も週一回の授業に加えて、講演会やワークショップを開催していく計画です。今、予定している海外ボランティア活動中の元自衛官の講演会は、高校生も対象にする



栗野武文

あわのたけふみ ●実践教育プログラム推進センター講師／青森大学経営学部卒業。前職にて就活生向けキャリア講座や新入社員研修ファシリテーターとして従事。

予定です。その他にも、英語でボードゲームを楽しむワークショップや集中英語合宿等の計画もあります。

中村 長期留学以前に、1年生も参加できる海外体験として、夏休みを利用したバルト3国巡りや台湾で地元学生と調査やディスカッションを行う16日間コースも実施され

ます。

**より魅力あるプログラムへ
今後、取り組むべき課題とは**

北川 では最後に、本プログラムをより魅力的なものにしていくためには何が必要とお考えでしょうか。みなさん、一言ずつお願いします。

栗野 学生、企業、自治体に認知してもらうことですね。学生のみなさんにはプログラム

**学生、企業、自治体に
認知してもらう —— 栗野**

への参加を、企業、自治体の皆様にはご協力をお願いしたいです。

中村 キーワードは「対話」だと思っています。自分の意見を持つこと、相手の意見や事情を理解すること。一致するとは限らない、その時どう合意点を見出していかです。相手が海外でも企業でも自治体でも。

長岡 講義やワークショップを通して物事を複眼的に見たり、考えたりする重要性を伝えていきたいと思っています。事実もひとつではないのです。そして、五感を使った教育を大事に。色、音、ニオイも情報です。映像に敏感な世代ですから、できるだけ参考文献に加えて映像も教材として活用していきます。

北川 人材育成には地域の企業や自治体の協力が欠かせません。そのために3学部が協力し、本プログラムの認知度を高める努力をしていきましょう。本日は、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

実践教育プログラム専任教員



グローク・ダグラス

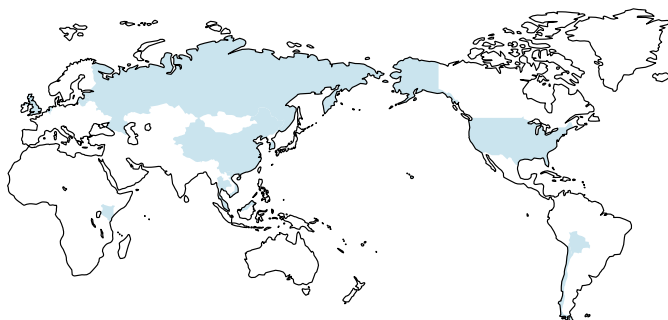
ぐろーぐ・だぐらす ●実践教育プログラム推進センター准教授／イギリス出身。エクセター大学(University of Exeter)卒業。日本在住20年。山形県内の小中学校・高校・大学で英語を指導。現在は、実践英語および実践コミュニケーションを研究中。



長谷川俊一

はせがわしゅんいち ●実践教育プログラム推進センター教授／山形大学理学部卒業。名古屋大学理学研究科修士課程修了。1975年山形県に入庁し、最上総合支庁産業経済部長、教育庁理事などを務める。2010年から山形県職業能力開発協会統括参事を務めた。

協定締結校(長期留学予定校)がある国

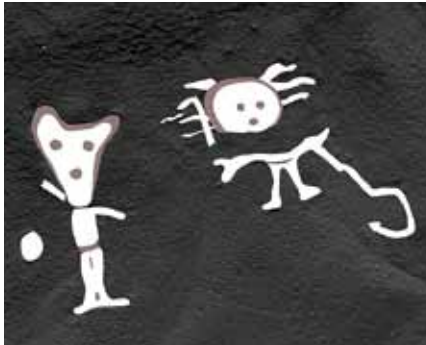


17カ国37校にも及ぶ協定校の中から、学生自らが留学先を決定する。

人文学部

Faculty of
Literature and Social Sciences

新地上絵を発見!



新地上絵(合成図)

人文学部附属ナスカ研究所は、新しい地上絵を発見し、4月12日(金)の学長定例記者会見で発表しました。

今回発見した地上絵は、パラカス後期(紀元前400～紀元前200年頃)に制作されたと考えられ、地表の小石を面状に取り除くとともに、それらの小石を積み上げることで、人間の形を描いています。同じ技法を用いた「人間の頭」の地上絵を山形大学は2011年1月に公表しています。有名なハチドリなどの地上絵とは異なった制作技法が用いられ

ています。

向かって「左側の人物」は全長約13メートルで、頭部が逆三角形です。一方、「右側の人物」は全長約9メートルで、頭部は丸形です。

「右側の人物」は頭から放射状の線が伸びており、重要な存在が描かれた可能性があります。ただし、頭部と胸部が分断されており、斬首された可能性も否定できません。

人文学部附属ナスカ研究所では、今後も新地上絵の公表や研究所レポートの発行を通して研究内容を発信していく予定です。

地域教育文化学部

Faculty of
Education, Art and Science

造形芸術コース「プレ卒展(課題研究展)」を開催



地域教育文化学部造形芸術コースの4年次学生による「プレ卒展」(造形芸術コース課題研究展)が4月8日(月)から14日(日)まで、山形市七日町のナナビーズ6階、山形県芸文美術館ギャラリーで開催されました。これは新4年生が3年次で行った課題研究の成果を地域に披露するとともに、年度末の「卒業制作展」に向けての意識を高めることをねらいとして、今回はじめて開催されたものです。

会場には抽象絵画の大作や動物を題材に

した彫刻作品、写真と立体を組み合わせたデザイン作品や光の透過によって美しい表情をみせるガラス作品など、学生19名による絵画、彫刻、デザイン、工芸各領域の作品26点が展示されました。期間中、会場には結城学長をはじめ100名を超す来場者があり、学生にとって卒業研究・制作に向けての今後の課題を確認するうえで有意義な展示となりました。

理学部

Faculty of Science

わくわく化学実験ランド 科学技術週間に化学実験開催



理学部では、小学生対象の小さな科学者・体験学習会を物理・化学・生物・天文の分野で開催しています。

2013年度のトップバッターとして、化学分野の「わくわく化学実験ランド」を行いました。基本は親子で楽しく化学の実験です。今年は、科学技術週間に合わせて開催しました。当日は、桜の季節にしてはめずらしく雪が降る中、23組の家族(総勢60名)に参加していただきました。前半は、化学反応から熱エネルギーや電気エネル

ギーを取り出す実験を行ないました。後半は、化学反応と光エネルギーの実験で、身の回りの光るものを探したり、ホタルの光の原理を学びました。科学技術週間の標語「何でだろう? そういえばスタートライン」に多くの子供達が立ってくれたと思います。

夏休みや学園祭の時に他の分野の実験が開催される予定です。未来の科学者の参加を理学部の教職員一同お待ちしております。



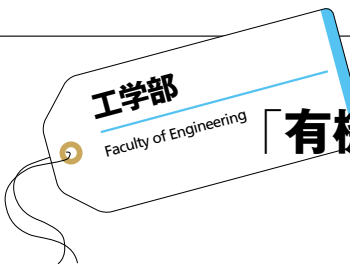
「在宅医療・在宅看護教育センター」を設置

医学部では、3月28日(木)に「在宅医療・在宅看護教育センター Executive Committee」(会長：嘉山孝正)を開催し、この4月からの同センター設置を決定しました。

高齢化の進展により、医療のdemandである75歳以上の人口が、今後40年に亘り増え続けていきます。急性期病院のみならず、在宅医療・在宅看護の重要性が質・量ともに増えています。特に2人に1人が罹患するがんに関する需要が増していますが、この分野は未成熟であり取組もまちまちで

す。がんに関する専門知識や治療法は著しく進歩していますが、現場を支援するシステムがなく、在宅現場での質の担保が大きな課題となっています。

本センターでは、医師や看護師らを対象に、在宅医療等に必要の専門知識の習得や現場での実践力の育成を支援します。これら在宅医療等に係る教育に特化した取組は全国で初の試みであり、将来的にはこの教育システムを全国のモデルケースにまで高めたいと考えています。



「有機エレクトロニクスイノベーションセンター」 開発研究スタート

「夢からビジネスへ」をキャッチフレーズに、「山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター」が4月、開発研究をスタートしました。

工学部は、長年積み重ねてきた夢の技術、未来の技術である有機エレクトロニクスを発展させるため、2011年、世界的な研究施設「有機エレクトロニクス研究センター」を開設し、次々と研究成果をあげてきました。それをさらに現実のビジネスへと押し進めるため、米沢オフィス・アルカディア

に開設されたのが「有機エレクトロニクスイノベーションセンター」です。センターは経済産業省の補助金を基に山形県、米沢市の支援を受けて建設し、運営も産官学連携で行います。スーパーイノベーターと呼ばれる山形大学の研究者と、共同で開発研究を行う企業の技術者を結集し、産業化に向けての新たな技術開発を目指します。開所式は9月を予定しています。



上名川演習林が「ふるさと文化財の森」に設定

3月25日(月)付けで、上名川演習林(鶴岡市上名川)のスギ林約26ヘクタールが文化庁の「ふるさと文化財の森」に設定されました。当日、文化庁において設定書の交付式が行われ、近藤誠一文化長官より野堀やまがたフィールド科学センター長が受け取りました。

山形県内では、山形市木沢、長井市草岡、西川町の漆林が設定されていますが、木材(スギ)は初めてになります。

演習林は、農学部が管理し、普段は実験

や実習などに使用されています。

今後は、設定されたスギの木をこれまで同様に管理し、搬出に係る林道整備等進めながら、文化庁から提供の要請があった場合は大学として検討することになります。また、木材の重要性について文化財と演習林の関係を含め、子供たちに伝えていくための普及活動についても検討していきます。



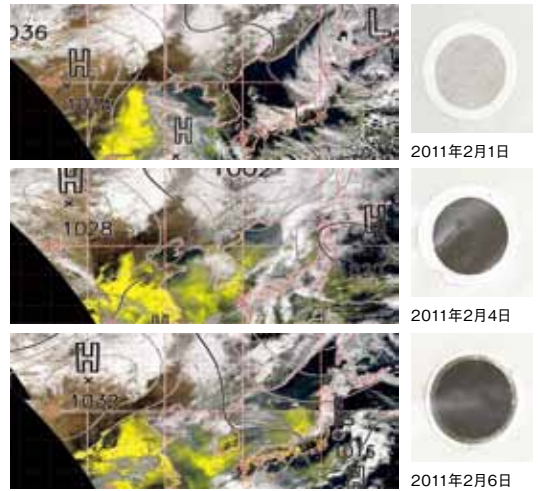
大陸からの汚染物質の流入に着目 環境問題を地球単位で考える

春になると空が黄色くかすむ黄砂現象や、最近話題となった大気汚染物質PM2.5など、アジア大陸から日本に運ばれてくるさまざまな物質を、観測・解明にあたっているのが地球環境学科の柳澤先生。冬になると大気汚染がひどくなることから、大陸で発生した汚染物質は北西の季節風に乗って日本に飛来していると考えられている。しかし、詳しいことはまだよくわかっていないため、アジア大陸での大気汚染物質の発生と、日本国内における汚染状況を照らし合わせながら解明していく必要がある。



蔵王で樹氷を採取している様子。樹氷のそばにロープを張り、そこに着いた着氷を採取している。

東北大と共同で、人工衛星 MODIS の画像データを活用して、汚染物質の大気中の移動を可視化する技術を開発中。衛星画像の黄色い部分が汚染物質の分布で、右側の円は、衛星画像の撮影と同時期に、樹氷から採取された汚染物質。並べてみると、汚染物質の動きと樹氷の汚染濃度の変化が合致しているのがわかる。衛星画像提供/東北大学 工藤純一教授



2011年2月1日

2011年2月4日

2011年2月6日

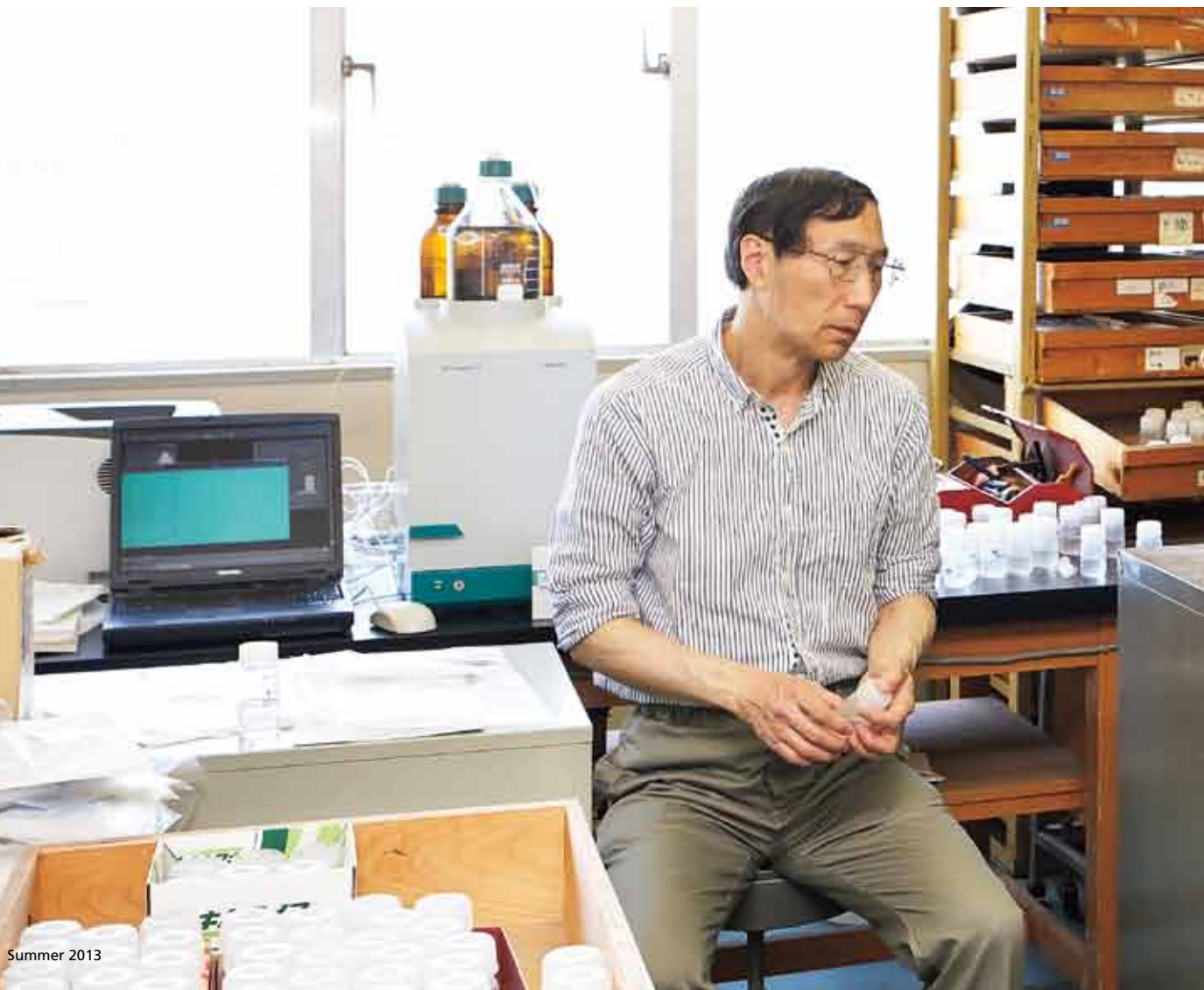
柳澤先生の本学着任は平成2年で、その翌年から大気汚染を観測する目的で、蔵王の樹氷を活用している。標高1,600m周辺にある樹氷には、アジア大陸から流れてくる大気そのまま付着し、周囲には汚染物質を排出するものがないことから、純粋にアジア大陸からの大気によるものと断定しやすいからである。調査・分析の手法はこうだ。まず、樹氷を採取するといっても、巨大な樹氷そのものからでは、いつ付着した氷かの判断がつかない

ため、樹氷近くにロープを張り、そこに付着した氷を採取する。およそ1日で氷が付着するので、それを採取して研究室に持ち帰り、分析・解析を行う。柳澤先生の研究室に所属する学生・院生たちが、冬の蔵王で樹氷の研究に奮闘している。

樹氷からわかる地球環境の変化 衛星画像による大気汚染予報

当初は、大気観測のための手段に過ぎな

環境問題が深刻化する中、
汚染物質の移動を予測するシステムを開発中。





柳澤文孝

やなぎさわふみか ●理学部地球環境学科教授/長野県出身。東京工業大学で理学博士を取得。1990年着任、08年より教授。地球表層の物質循環を研究する安定同位体地球化学が専門。近年は樹氷の研究にも熱心。

かった樹氷だが、樹氷そのものからもさまざまな地球環境の変化が見えてきている。まず、樹氷ができる標高。60~70年前までは標高1,300m以上で観測できたが、現在では標高1,600m以上まで行かないと見られない。さらに、かつては12月後半から4月初旬までだった見ごろが、近年では1月から2月前半までと極端に短くなっている。生活による排熱の影響を受けることがない蔵王山頂での樹氷の生成高度の上昇は、地球そのものの温暖化を如実に物語っている。また、柳澤先生が調査を開始した20年前に比べ、樹氷の酸性化が進んでいるという。周辺に大規模工場地帯がないため、これもアジア大陸からの影響と考えられる。

アジア大陸から飛来する大気汚染物質から身を守るためにはどうすればいいのか。柳澤先生は、東北大との共同研究で、人工

衛星の画像データと天気図を重ね合わせて、大気中の汚染物質の移動の様子を目視できる技術を開発した。これを見れば、大気汚染物質が蓄積されていく様子、風向きや風速によって2~3日後には日本に到達するといった予測が可能となるのだ。近い将来、大気汚染予報とも呼ぶべきシステムが確立されるかもしれない。汚染物質を堰き止めることはできないとしても、予め予測できていれば、マスクをしたり、外出を控えたりといった対策をとれることになる。今後は、世界各地で生まれる汚染物質の移動予測にも、この技術を生かしていきたい考えだ。

「樹氷国体」を機に環境問題への関心も高めたい

柳澤先生の専門分野はあくまでも大気の研究なのだが、樹氷との関わりが長いこともあり、樹氷に関するさまざまな問い合わせが寄せられるようになった。樹氷といえば山形の冬の風物詩、観光資源としても大きな存在。文献も充実しているものと思われがちだが、意外にも資料は手薄で、特に戦前の歴史に関しては誤りも多いという。「樹氷」と

いう言葉の誕生や、アイスモンスターとして蔵王の樹氷が海外で初めて紹介されたエピソードなど、科学以外の分野にまで研究は及んでいる。

来年、樹氷発見からちょうど100年という記念すべき年に「やまがた樹氷国体」が開催される。その際に設けられる樹氷に関する展示ブースの企画は、すべて柳澤先生に一任されている。「樹氷という人々に関心を抱きやすい題材を通して、地球温暖化や大気汚染といった環境問題への関心も高めてもらえるような展示にしたい」と意欲をのぞかせている。



樹氷が初めて世界で紹介された冊子。タイトルは「陸奥曲(みちのくぶり)」。昭和6年、仙台鉄道局発行。左ページには樹氷の写真、右ページには日本語と英語の解説文が掲載されている。

樹氷を採取・解析することで大気中の汚染物質を調査。樹氷研究の第一人者に。

柳澤文孝 理学部 地球環境学科 教授

この冬、PM2.5という汚染物質が、連日マスコミで取り上げられていたのは記憶に新しい。そうした物質が地球の表面でどう動いているのかを研究する、安定同位体地球化学が専門の柳澤文孝教授。汚染物質を採取する上で樹氷が好都合だったことから、樹氷についても研究を深めており、今や樹氷研究の第一人者として、さまざまな分野で活躍を見せている。

理学部
研究室訪問

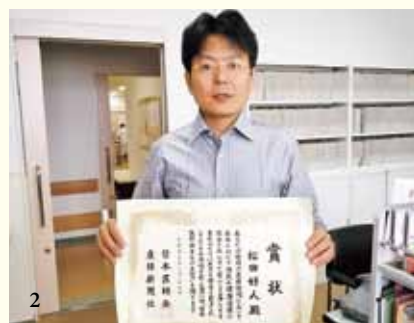
山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1

診療所の診察室で患者さんを迎える松田先生スマイル。その穏やかな表情に患者さんの気持ちも自然とほぐれる。先生に診てもらった患者さんたちが、心から発する「ありがとう」が松田先生の新たな原動力に。



2

2

「日本医師会赤ひげ大賞」の賞状。5人の受賞者の中で最年少ということもあって「過分な賞です」と謙遜しきり。診療所ががんばっている全員でいただいた賞であり、自分はその代表に過ぎないと強調する。



3

大学2年の時に自転車北海道旅行をした時の写真。体力には自信があったが、さすがに石北峠越えはきつかった。この時に「北海道はいいところだな」と思ったのがきっかけで、北海道大学の医局に進むことを決意。

外来診療にとどまらず、訪問医療にも尽力。 献身的な医療活動で、第一回赤ひげ大賞を受賞。

懸命の成果

松田好人 名寄市風連国民健康保険診療所 所長

「子どもの頃は体が弱くて、よく医者への世話になっていました。だから、将来は自分も医者になって患者さんの役に立ちたいと思うようになり、それ以外の職業は考えたこともありませんでした」と、医師になった動機を語るのは、現在、北海道名寄市の診療所で所長を務める松田好人さん。岐阜県出身の松田さんは、高校時代までを東京で過ごし、その後は山形、北海道へと移り住む。「スキーが好きだから」とにこやかに話すが、地域医療の将来に対する危機感から、医師が極端に少ない北海道北部に自ら飛び込んだ。しかも、診療所での外来診療だけでも手いっぱいにもかかわらず、介護施設や個人宅への訪問診療も引き受けている。昨年からは医師2人体制になり、

ずいぶんラクにはなった。しかし、患者さんからの要請にはできるだけ応えたいとの思いが強く、いつでも対応できるよう待機している。冬には氷点下20度を下回る極寒の地で、大雪の日でも患者さんのもとへ駆けつける。患者さんやそのご家族、看護師らスタッフからの信頼は厚く、気さくな人柄に人気も高い。

その献身的な働きぶりに日本医師会が目目し、地域の医療現場で長年にわたり、地域住民の生活を支えている医師を顕彰する「日本医師会赤ひげ大賞」の創設第一回の記念すべき受賞者の1人に選ばれた。5人の受賞者の中では最年少だったが、賞は診療所ががんばっている全員でもらったものと考えて、至って謙虚。受賞したこと以上

に、地域の人々や患者さんたちが喜んでくれたことが一番嬉しかったという感想にも、松田さんの人間性がよく表れている。

「サイクリングや大好きなスキーを楽しむことに一生懸命で、あまり勉強熱心な方ではなかったですね。よく追試も受けていました」と大学時代を振り返り、優秀な学生ではなかったことを強調するが、さまざまな経験を糧にしてきたことは想像に難くない。そんな松田さんから後輩たちへ一言。「いろんな考えを許容する柔らかさを備えた人間になってほしい。そのためには、自分と価値観の違う人とも積極的に交わることで」地域医療に貢献する松田さんの今後に、ますます期待したい。

今回のランナー:



松田 好人

まつだよしと●1969年岐阜県生まれ。山形大学医学部卒業後、北海道大学医学部第一外科入局。同大学附属病院などを経て、平成17年より現職。第一回「日本医師会赤ひげ大賞」受賞。



渡辺 幸

わたなべゆき●工学部機能高分子工学科2年。山形県出身。祖父の影響で幼少期にはじめたスキーオリエンテーリングで2度の世界選手権を経験。その魅力を伝え、普及に努める。

欧州ではメジャーなスキーオリエンテーリング。日本代表選手として普及に努め、仲間を増やしたい。

継続の成果

渡辺 幸 工学部 機能高分子工学科 2年

「スキーオリエンテーリング」をご存じだろうか。クロスカントリースキーでオリエンテーリング※を行うスポーツで、まだ日本では馴染みが薄い。ヨーロッパではかなりメジャーなスポーツだ。祖父の影響で物心ついた頃にはスキーを履き、地図を持って滑っていたという渡辺幸さんは、今年3月にカザフスタンで開催されたスキーオリエンテーリング世界選手権大会に、日本代表選手として2度目の出場。今回の大会で日本選手団の役員・コーチとして同行した武石雄市さんは、渡辺さんの祖父で、日本におけるスキーオリエンテーリングの草分け的な存在。スキーオリエンテーリングの未来を孫に託したカタチだ。

幼い頃は、ご褒美目当てに滑っていただ

けという渡辺さんも、高校生になった頃からはスキーオリエンテーリングの面白さにのめり込んでいった。スキーのテクニックだけでなく、地図を読み、最善のルートを見極める能力も問われる競技としての奥深さ、チェックポイントを見つけた瞬間の高揚感など、独特の醍醐味を実感。さらに、スキーならではのフルスピード感は、フットオリエンテーリングでは味わうことができない。工学部のある米沢市は、冬場の練習環境にも恵まれている。オフシーズンのトレーニングとしては、フットオリエンテーリングで体力の強化を図り、滑りの感覚をキープするためにローラースキーを取り入れている。

2011年1月にカザフスタンで開催され

たアジア冬季大会から正式種目となり、冬季オリンピックでの種目採用への期待が高まっている。そのためにも競技人口を増やし、選手層を厚くしていく必要がある。まずは、大学でサークルを立ち上げ、身近なところから仲間を増やしていこうと思案中。渡辺さんを中心として、スキーオリエンテーリングのメジャー化が本学から波及し、オリンピック選手を送り出す日もそう遠くはないかもしれない。

※オリエンテーリング…地図とコンパスを用いて、山野に設置されたポストをスタートから指定された順序で通過し、フィニッシュまでの所要時間を競う野外スポーツの一種。スキーやマウンテンバイクによるオリエンテーリングも普及しており、従来からのクロスカントリー走に基づくオリエンテーリングをフットオリエンテーリングと呼ぶ場合もある。



1



2



3

1 今年3月にカザフスタンで開催された世界選手権での一枚。右端が渡辺さん、隣が祖父でJOAスキーオリエンテーリング委員・コーチの武石雄市さん。日本を応援してくれた外国人の方と左端は日本代表選手の黒田さん。

2 10年前、祖父に言われるがままスキーオリエンテーリングをしていた頃の渡辺少年。チェックポイントであるポスト脇で、真剣に地図をチェックし、ルートを検討中のような様子。

3 世界選手権で使用したオリエンテーリング用の地図。地図には通る順番や等高線、道路の幅、岩や祠、炭焼窯など、さまざまな情報が詰め込まれている。これを走りながら理解し、ルートを選択してゴールを目指す。

工学部「英語学習支援サイト」オープン

「英語学習支援サイト」<http://www2.yz.yamagata-u.ac.jp/englishsupport/>



米沢キャンパスの工学部では、グローバルに活躍できる学生の育成を目指し、英語教育にも力を入れています。英語に距離を感じる学生が多い中、英語を身近に感じながら英語力が高まるいろいろな取り組みを行っています。

国際交流センターでは、7月下旬の夏休みの間、海外から留学生を受け入れ、本学の学生がホストを務めるサマープログラム(SP)を実施し、ブラッシュアップ室では、英語を不得手とする学生に対して英語の補講や英語学習に役立つ講演会などを行っています。これらの一環として、工学部学務委員会が中心となり、国際交流センターの協力のもと「英語学習支援サイト」が、平成25年4月にセンターのHPにオープンしました。

このサイトの目的は、“英語学習が自分の将来とどのような関わりを持つか”を学生に理解してもらい、英語学習に必要な情報提供を行い、学生自らの積極的な英語学習を促すことです。

英語と将来との関わりは、米沢地域の企業で英語を使い、海外と仕事をしているOBの方々や、海外の学生とSPで接した学生の感想などのビデオメッセージ、また工学部で実施している合同企業説明会での参加企業のアンケート結果を通して知ることができます。このように身近な人たちからの情報で、学生時代の英語の学習が如何に大切か、就

職時にどの程度の英語力が求められるか、就職後もどのように英語力が会社生活に関係するかについて情報が得られ、英語学習の重要性を理解することができます。もちろん、外部試験の企業のHPともリンクして、一般的な外部試験情報や就職活動関連の情報も得られます。

英語学習について、初級者向けでは、いろいろなメディアでの英語教育番組の情報をまとめて提供し、上級者向けでは、学部でのSPに関する情報提供や近郊の国際交流協会の情報、さらには海外留学の情報提供も行っています。各学科のコーナーも設け、学科で用いる基礎的な専門用語集や専門の授業担当の教員が過去にどのように英語学習に取り組んできたか、また教員からの英語学習への生きたアドバイスも提供されています。一方、語学教材については、工学部図書館に設置する英語教材の数を増やし、貸し出し状況もサイトから得られるようにし、学生の利便性を改善しています。

英語学習に関する幅広い情報を活用し、自分の将来を考えながら、自ら英語学習に取り組み、実社会で大いに力を発揮してほしいと考えています。最後に、ビデオメッセージにご協力いただいた方々には、貴重な時間をいただき、心より感謝いたします。



Webサイトのトップページ



OBのビデオメッセージ。仕事と英語の関わりなどについて知ることができます



サマープログラムでの研究室見学



サマープログラム、グループ毎のポスター発表

サラマンカ大学(スペイン)と大学間交流協定を締結しました

3月1日(金)に、スペインのサラマンカ大学において、両大学関係者及び多数の現地マスコミ関係者が見守る中で、安田弘法理事・副学長(国際交流担当)と Daniel Hernandez Ruiperez サラマンカ大学長が、学術交流協定書及び学生交流に関する覚書にサインし、大学間交流協定を締結しました。

このたびの協定は、本学理学部地球環境学科リチャード・W・ジョルダン教授がサラマンカ大学のFlores教授との長年にわたる研究交流を契機として、理学部

と農学部による共同提案の結果実現したもので、本学にとってスペインの大学とは初めての協定となります。

同大学は、スペインの首都マドリードから西北西約200kmの方向に位置する都市サラマンカにあり、63の学科で約32,000人の学生が学ぶ、歴史と伝統のある総合大学です。1218年に設立され、現存するスペイン最古の大学であり、オックスフォード大学・ケンブリッジ大学・パリ大学・ポローニャ大学と並び、ヨーロッパで最も古く権威のある

大学の1つとして知られ、今日に至るまで、スペイン国内外に多くの偉大な学者を輩出し、学問の殿堂としての重要な役割を果たしてきました。また、1988年には、サラマンカの旧市街とともにユネスコの世界遺産に登録されました。

今後、理学部が中心となって、教職員の交流・共同研究をより一層推進し、留学生の相互受入れ等学生間の交流も活発に行いたいと考えています。



中世の面影を色濃く残すサラマンカ市街



協定書にサインする安田理事・副学長と Daniel Hernandez Ruiperez サラマンカ大学長



調印式の前日開催されたセミナーで、山形大学及び理学部の説明を行うジョルダン教授

東北学生剣道優勝大会で優勝し、全国大会に出場

地域教育文化学部 スポーツ文化コース
4年 柴田 淳

昨年9月16日(日)に、塩釜ガス体育館で第60回東北学生剣道優勝大会が行われました。私達は、この大会に向けて練習試合や西川町での合宿で練習を積んできました。しかし、大会前の数週間は実習中の選手が多く、なかなか全員がそろって練習することができなかつたり、試合で思うような結果が出ず、みんなで悩み苦しんだりすることなどがありました。それでも一人ひとりが全国大会出場という目標に向かって努力してきました。

大会当日、私達は4校の予選リーグ

で、前年度優勝の東北学院大学に敗れましたものの、予選を2位で通過しました。その後も一番の持ち味である、つなぐ剣道で勝ち上がり決勝に進み、再び東北学院大学と対戦することになりました。そこでみんなの気持ちをひとつにし、5年ぶりの優勝を勝ち取ることができました。この優勝は監督である竹田隆一先生や支えてくださったOB会の方々、保護者の方々のおかげだと思います。

大阪で行われた全日本学生剣道優勝大会では、一回戦で駒澤大学と対戦し、東

北の代表として精一杯自分たちの力を出しましたが、惜しくも2-1で敗れました。しかし、確実に自分たちの力が付いていることを感じる事ができ、この悔しさをばねに全員で、全国大会で活躍するというまた新たな目標に向かって努力しようという決意をしました。今年の大会は9月29日(日)に行われますが、連覇を達成し、新たな目標を成し遂げられるように頑張りたいと思います。

※これらの活躍が認められ、剣道部は平成24年度山形大学奨励表彰を受けました。



優勝杯を手にし、監督と選手全員で記念撮影



道場での練習風景



山形大学奨励表彰式

山形大学特別プロジェクト

第6回 高校生朗読コンクール

「いま、言葉を東北の灯に」と題し、東北地方在住の高校生を対象とした朗読コンクールを開催します。

◎予選

応募資格／東北6県在住の高校生。または、各県内の高校に在学中の高校生。(高等専門学校生は1年から3年までのみ。)

◆予選課題文／宮沢賢治「銀河鉄道の夜」

◆応募締切／7月5日(金)(当日必着)

◎本選

日時／9月8日(日) 13:00～17:00(予定)

会場／シベールアリーナ

(山形市蔵王松ヶ丘2-1-3)

※本選当日は、磯部勉さん、益岡徹さんと山形市民、山形大学生による宮沢賢治原作「グスコーブドリの伝記」群読劇の上演も同時に開催します。

問い合わせ／山形大学渉外部 渉外課

TEL 023-628-4016

公開講座等

人文学部

東日本大震災からの復興

日時／9月24日(火)、10月1日(火)・

8日(火)・22日(火)・29日(火)

18:30～20:10

場所／人文学部講義室

参加費／2,000円(高校生、大学生は無料)

対象・人数／一般市民・大学生・高校生 30人

問い合わせ／人文学部事務局

TEL 023-628-4203

地域教育文化学部

目指せ、オリンピック!

—山形大学バスケットボールクリニック—

日時／8月10日(土) 9:00～12:00

場所／地域教育文化学部第一体育館

参加費／500円(保険料含む)

対象・人数／山形市内の女子小学生・中学生
各20人(全40人)

問い合わせ／地域教育文化学部事務局

TEL 023-628-4305

21世紀の教育の創造

—ほめる・叱るに替わる教育と子育て—②

日時／8月28日(水)、9月4日(水)・11日(水)・

18日(水)・25日(水)

18:00～20:00

場所／地域教育文化学部講義室

参加費／2,000円

対象・人数／一般市民 50人

問い合わせ／地域教育文化学部事務局

TEL 023-628-4305

理学部

小さな科学者・体験学習会

光の不思議

日時／7月28日(日) 13:30～15:30

場所／山形県産業科学館4階発明工房

参加費／無料

対象・人数／小学4年生～中学3年生20名
およびその保護者

問い合わせ／理学部事務局

TEL 023-628-4505

小さな科学者・体験学習会

親子体験! バイオロジー・11

日時／8月4日(日) 13:00～15:30

場所／理学部SCITAセンター

参加費／無料

対象・人数／小学5・6年生およびその保護者

問い合わせ／理学部事務局

TEL 023-628-4505

小さな科学者・体験学習会

わくわく化学実験ランド

日時／10月19日(土) 10:00～12:00

場所／理学部SCITAセンター

参加費／無料

対象・人数／小学4年生～中学3年生20名
およびその保護者

講師／栗山恭直

問い合わせ／理学部事務局

TEL 023-628-4505

医学部

超高齢化社会のリハビリテーション

～在宅医療に必要な基礎知識～

日時／9月7日(土) 13:00～17:10

場所／医学部医学交流会館

参加費／4,000円

対象・人数／医療従事者・介護関係者・一般
市民 100人

問い合わせ／医学部総務課庶務担当

TEL 023-628-5006

見つめて!感じて!
サイエンスマジック!

Re★らぼ!

山大サイエンスカー



FRI (第1週)
21:00 - 21:30

Twitter、
Facebookも
始めました!!

県内の中学生に、最新の科学をわかりやすい実験を通じてご紹介!
生徒達に流行していること、学校の取り組みもインタビューします!

〈出演〉栗山恭直(山形大学理学部教授)、大屋香里(エフエム山形アナウンサー)

〈周波数〉山形 80.4MHz 鶴岡 76.9MHz 新庄 78.2MHz 米沢 77.3MHz

Rhythm
Station

www.rfm.html

山形大学の行事・催事のご案内です。
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

工学部

科学フェスティバルinよねざわ2013

日時/7月27日(土)・28日(日)
10:00~16:00

場所/工学部

参加費/無料

対象・人数/小中学生(申込不要)

問い合わせ/科学フェスティバル実行委員会
TEL 0238-26-3002



生体機能を知る

~しくみ、計測、そして修復~

日時/8月2日(金) 13:00~16:20

場所/工学部

参加費/無料

対象・人数/一般 50人

問い合わせ/工学部広報室
TEL 0238-26-3419

次世代ロボットを創る 未来キカイ技術

日時/8月2日(金) 13:00~16:00

場所/工学部

参加費/無料

対象・人数/一般 100人

問い合わせ/工学部広報室
TEL 0238-26-3419

農学部

農場市

日時/6月27日(木)~毎週木曜日
12:00~13:00

場所/農学部

問い合わせ/農学部事務室(附属施設担当)
TEL 0235-24-2278

森の学校

日時/7月20日(土)、10月19日(土)、
2月1日(土) 8:45~16:00

場所/農学部附属やまがたフィールド科学
センター演習林(鶴岡市上名川)

※集合場所:山形大学農学部正面玄関前(旧
7号線側)及び鶴岡市朝日庁舎前からバス
にて送迎します。

内容/森の花、実、虫、きのこ、鳥、動物、木の
葉、冬芽等の観察・収集、植林、下刈り作業、
かまくら設営、そり滑り、スノーモービル乗
車等の体験型学習

参加費/各回500円(保険料、教材代等)

対象・人数/小学3年生以上 先着30人
(なるべく3回とも参加できること)

問い合わせ/農学部事務室(附属施設担当)
TEL 0235-24-2278



夏期セミナー

日時/8月1日(木) 8:30~16:30

場所/農学部

参加費/無料

対象・人数/生物や化学などに興味を持っ
ている高校生

問い合わせ/農学部事務室(学務担当)
TEL 0235-28-2808

収穫体験 大学農場へ行こう!

日時/9月中旬~10月下旬(土日祝日を除
く毎日) 9:00~12:00

※天候等での農作物の出来により、前後す
る場合があります

場所/農学部附属やまがたフィールド科学
センター農場(鶴岡市高坂)

参加費/収穫物代金のみ

対象・人数/幼稚園・保育園児等(団体)

※1日2団体まで

問い合わせ/農学部事務室(附属施設担当)
TEL 0235-24-2278

里山再生の科学

-いま起きていること、
これからやるべきことを考える-

日時/7月6日(土)・13日(土)・20日(土)・
27日(土)の4回 13:00~16:00

場所/農学部及び上名川演習林

参加費/無料

対象・人数/一般市民 25名

問い合わせ/農学部企画広報室
TEL 0235-28-2911

附属学校

親子でぺたぺた、ませませしよう

日時/9月5日(木) 14:30~15:45
(14:15~受付)

場所/附属幼稚園

参加費/親子一組200円

対象・人数/2~3歳児親子50組

問い合わせ/附属幼稚園
TEL 023-641-4446

その他

留学生による日本語発表会

小白川キャンパスで学んでいる短期留学生
が、日本語の授業で学んだ成果を発表します。

日時/8月2日(金) 13:00~16:40

場所/小白川キャンパス

参加費/無料

対象・人数/教職員、学生及び一般の方

問い合わせ/学生課留学支援担当
TEL 023-628-4119

印刷だけじゃない、田宮印刷。

TAMIYA
Graphic Communication

田宮印刷株式会社 山形市立谷川3-1410-1 ☎023-686-6111 www.tamiya.co.jp



広告掲載ご希望の方は、総務部広報室までお問い合わせください。TEL 023-628-4008

山大博物館

YAMADAI MUSEUM

シリーズ②

山形大学附属博物館の収蔵品をはじめ、
大学が誇る貴重な資料を紹介いたします。



絹本着色 106センチ×41センチ
木村武山 鷹

見返り美人よろしく右の横顔を見せる鷹が桜の木にとまっています。鷹の目には鋭さが宿るものの、やわらかい優しい印象を受けます。それは色合いと筆使いによるのかもしれませんが。全体的に淡い色調です。鷹の肩の辺りをハイライトとする、羽の先、尾にかけてのグラデーションは陽の光を感じさせるものがあります。鷹の足元のもやもやしたものは桜の枝です。絵の具のにじみの止まった所が輪郭となるようにしています。枝の凹凸や苔むした様子は、異なる色の混じり合いで表現しています。そして枝の先はぼんやりと消されています。これは春霞を描いたのでしょうか。鷹の頭上の1枚、視線の先の3枚の花弁は、そよ風に乗っているようです。花びらがなく、^{がく}萼としべのみのものが描かれていますが、これは風が

通り抜けた後でしょうか。鷹だけではなく、花の散りゆく様も楽しめる一品です。

作者の木村武山(1876-1942)は明治から昭和初期にかけて活躍した日本画家。2歳頃より絵を学び始め、岡倉天心が校長を務める東京美術学校に15歳で入学。下村観山に多くを学び、近代日本絵画をリードした日本美術院の構成員として研鑽を積み、横山大観、観山、菱田春草らとともに同院の中核を担う人物となります。

なお、本作品は落款より大正年間の制作と考えられるものです。
(附属博物館 小川祐貴子)

OPEN CAMPUS 2013

参加者
募集中!!

7.27 (土) ●医学部
場所/飯田キャンパス(山形市内)

- ・学科説明会(医学科、看護学科)
- ・体験授業(医学科)
- ・施設見学・演習体験(看護学科)

8.3 (土) ●人文学部・地域教育文化学部・理学部
場所/小白川キャンパス(山形市内)

- ・各学部・各学科(コース)説明会
- ・模擬授業、体験入学・体験学習
- ・なんでも相談(入試、奨学、授業料、学生寮等)コーナー等

8.2 (金) ●工学部 場所/米沢キャンパス(米沢市内)

- ・学部・学科説明会・模擬授業
- ・なんでも相談(入試、奨学、授業料、学生寮等)コーナー等

●農学部 場所/鶴岡キャンパス(鶴岡市内)

- ・学部・各コース説明会・研究紹介・模擬講義
- ・入試・学生生活・保護者相談コーナー等

●開催内容は諸般の事情により変更になる場合がありますので、随時本学のHPページをご確認ください。

●無料シャトルバスを運行します

各キャンパス最寄り駅(山形駅、米沢駅、鶴岡駅)から無料シャトルバスを運行しますので、ご利用ください。

●参加申込みについて

事前申込みが必要です。7月上旬頃から事前申込みを開始いたします。(原則として予約制ですが、当日の参加も歓迎します。)※事前申込みをいただき、メールマガジン登録をいただいた方には本学の入試等に関する情報をお送りいたします。

●問い合わせ

エンrollment・マネジメント部政策課
TEL 023-628-4063

平成25年6月28日に平成24年度の役員報酬等及び職員の給与水準を公表しました。詳細は次のホームページアドレスからご覧いただけます。http://www.yamagata-u.ac.jp/jpn/university/pdf/kyuyoH24.pdf

表紙の
ことば

1年生を対象とした長岡昇先生の「グローバル世界を考える」の授業風景。近現代史に対する認識を深めてほしいと工夫された構成。新聞社で長年アジア報道に携わってきた先生の講義に学生たちも興味津々だ。

●この「みどり樹」は山形大学ホームページでもご覧いただけます。

山形大学 みどり樹 検索

●「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にどうぞ。E-mail: koho@mj.kj.yamagata-u.ac.jp

●「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

編集後記 Editor's Note

樹々の緑も深くなり、さわやかな初夏を通り越し、山形ではすでに夏日も観測しています。本号では、4月から3学部共通でスタートした「実践教育プログラム」が特集されています。目玉の一つが「グローバル・スタディーズコース」。国際人としての語学力と異文化理解能力を養うべく、海外留学もプログラムに組み込まれています。ネットで世界の一流大学の講義が受講できる昨年、コーディネーターによるきめ細やかなサポート、足を使って肌で感じる「体験型」プログラムは他大学ではそうそうマネできない山大的「売り」になることでしょうか。なんと今の山形大生の羨ましいこと！ぜひ積極的に活用してほしいものです。

(みどり樹編集委員会委員 MA)

—地域に根ざし、世界を目指す—

山形大学
Yamagata University

山形大学ホームページ http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html